

第36回 我孫子市放射能対策会議 会議概要

- 【場 所】 市長応接室
- 【日 時】 平成25年5月22日（水）15：00～
- 【出席者】 市長、副市長、水道局長、総務部長、企画財政部長、市民生活部長、健康福祉部長、子ども部長、環境経済部長、環境経済部参与、都市部長、建設部長、教育総務部長、秘書広報課長、健康づくり支援課長、子ども支援課長、保育課長、クリーンセンター長、商業観光課長、手賀沼課長、農政課長、道路課長、下水道課長、公園緑地課長、水道局工務課長、学校教育課長、放射能対策室長

（報告事項）

（1）放射線量測定結果及び放射能に関する対応について

（各課）

- ・ 特に無し。

（2）給食食材の放射性物質検査について

（学校教育課）

- ・ 4月23日の学校給食食材の放射性物質検査において、千葉県産の乾燥大豆からセシウム137が6.5ベクレル/kg検出された。該当する乾燥大豆を使用する学校では、他の産地の乾燥大豆に切り替える措置をとった。
- ・ 第一小では、該当する乾燥大豆を使用したと思われる献立があることが判明したため、保護者には文書でお知らせをした。学校栄養職員には学校給食食材の産地の確認と記録を徹底するよう、注意喚起を行った。

（3）手賀沼の放射性物質モニタリング調査について

（手賀沼課）

- ・ 千葉県が3月に3回目の放射性物質モニタリング調査を実施した。
- ・ 大堀川の北柏橋と大津川の上沼橋については、放射性物質濃度が少しずつ下がっているため、手賀沼の上流に位置する河川は下がっている状況にあるといえる。
- ・ 沼内については、大堀川の河口付近で上がったたり下がったりしている。大津川の河口付近はほとんど横ばいの状況である。根戸下は少しずつ上がっている状況にある。手賀沼中央については、ほとんど横ばいの状況である。
- ・ これまで、環境省が6回、千葉県が3回の計9回の調査を行ってきたが、水質からは放射性物質は一度も検出されていない。

（4）住宅の除染について

（放射能対策室）

- ・ 3月末で501件の除染が終了した。第1次、第2次募集の摘み残し分と第3次募集分の182件については、6月中に終了させる。
- ・ 4月1日～4月30日の期間で、第4次募集としてすべての住宅を対象に募集をしたところ、申し込みが962件あった。5月21日現在で、636件の測定を終えている。6月中旬には全件の測定を完了させる。
- ・ これまでの測定結果から推計すると、3割の約300件が除染の対象になると想定される。
- ・ なお、6月16日～6月30日を期間として全ての住宅を対象に最終の募集を行う。

(5) 手賀沼公園と高野山桃山公園の除染について

(公園緑地課)

- ・ 手賀沼公園は、測定の結果では国の補助対象にならないが、広域的な公園で利用者も多いことから、市の単独事業として除染を行うこととする。除染は、6月の初旬に業者と契約をして、8月3日に開催される手賀沼花火大会前の7月17日に完了させる予定である。
- ・ 除染工事期間はSLの利用は中止とする。これについては、除染の案内と併せて、広報・ホームページ・現地掲示板でお知らせする。
- ・ 高野山桃山公園は、基準値を上回っている高台の芝生広場を国の補助金で除染を行う。ただし、南側に面する斜面地及び低地部の水辺付近等の放射線量が基準値を下回っている場所は除く。除染期間は、9月～12月を予定している。

(6) 平成24年度放射線量低減対策特別緊急事業費補助金の交付額の確定

(放射能対策室)

- ・ 実績報告額は約1億1500万円であったが、このうち約212万円が補助金の対象外とされ、交付額は約1億1300万円と確定した。
- ・ 小学校の屋上で実施した天然重曹を用いたコンクリート除染に係る経費、校舎周りの除染で舗装をはがした経費、幼稚園の除染工事の川砂の敷き均しに係る経費、道路側溝汚泥の保管に要したプラスチックパレットの敷設に係る経費などが補助金の対象外とされた。

(7) 東京電力への賠償請求について

(水道局)

- ・ 平成23年度に放射能対策で要した人件費について、4月25日に東京電力へ賠償請求したが、5月10日に東京電力の担当者から、放射能の測定値をホームページに掲載するための作業は放射能対策に特定できない(通常業務と切り分けての証明が困難)との理由で、賠償の対象外となるとの判断が示された。
- ・ 協議の結果、放射能の測定値をホームページに掲載するための作業費用は、請求しないこととした。

(その他)

(農政課)

- あびこ農産物直売所「あびこん」での農産物の放射性物質検査について、ここ1～2年の測定実績では、葉物などからは放射性物質は検出されていない。農家の方々には、検査のために、検体を無償で提供してもらったり、刻んで加工してもらったりして、負担がかかっていた。
- 国は3月に新たな検査方針を示し、25年度からは重点品目の計画検査に移行した。
- あびベジの役員会や農家の方々の意向も踏まえ、6月からはこれまでの検査で検出されていないものは検査の対象から外し、少しでも検出されたものは継続して検査を行うこととする。なお、「あびこん」から学校給食に出すものについては、これまでの検査結果に関わらず全品目の検査をひきつづき実施する。
- 千葉県が実施した、「タケノコの出荷解除に向けた検査」の結果が公表された。我孫子産の12検体のうち、1検体から基準値を超える130ベクレル/kgが検出された。この結果、平成26年度産のタケノコについて、出荷当初からの出荷解除に向けた協議は出来ないことになった。

(商業観光課)

- 市民が持ち込む食品の放射能検査について、4月に77検体を検査し、そのうち4検体が基準値を超えていた。4検体は、ゼンマイが2検体、タケノコが1検体、梅干が1検体であった。なお、タケノコは龍ヶ崎市産のものであった。